

## 研究委託校・実践校の紹介

### 白老町立萩野小学校

#### 今年度の公開研究会は中止

本校では、算数科を中心に「自分の考えをもち、課題を解決する力の育成」(4/4年次)の研究を行っています。今年度、特に力を入れて取り組んでいるのは、単元(題材)を見通した具体的な評価規準の設定です。特にB評価、C評価を明確にし、「どのように達成させるのか」について普段の授業づくりから取り組んでいます。評価規準に応じた学習活動をバランスよく位置付けられるよう、授業改善推進チーム<sup>1</sup>と協力しながら授業改善に取り組んでいます。

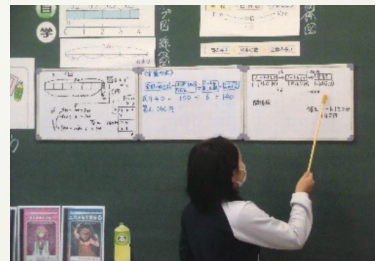
<sup>1</sup>～苫小牧の2校と萩野小学校で実践的指導力を有する教員がチームとなり、1週間ずつ各校を巡回し、授業改善に向けた取組を行う。北海道教育委員会の事業。

#### 自分の考えをもち、課題を解決する力の育成

～算数科等における日常授業の充実を通して～



5年算数科  
「分数」  
見通しを発表しているところ



4年算数科  
「図を使って考えよう」  
ホワイトボードを使って考えを説明しているところ

### 登別市立若草小学校

#### 公開研究会1月28日(金)

本校では、国語科を研究領域として、令和元年度から3か年計画で研修を進めてきました。1年次は国語科の見方・考え方を生かした授業とはどのようなことなのかについて、授業研究を通して確認しました。2年次は、単元の系統性を明らかにした上で、どのようにすると主体的・対話的な学びになるのかを考え、研修を深めてきました。そして3年次である今年度は、単元や1単位時間のねらいを明確にした、主体的・対話的で深い学びに向けた方策の共有化に向けて研修を進めています。

#### 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

～主体的・対話的で深い学びを実現するための手立ての共有～



6年国語科  
「時計の時間と心の時間」  
ジャムボードを使って考えを交流しているところ



3年国語科  
「こまを楽しむ」  
全員で文章の構成について考えているところ





## 壮瞥町立壮瞥小学校

### 公開研究会10月27日(水)

本校では、平成31年度から表現力の育成を目指し、児童が意欲的に学習に取り組めるように算数科を中心に授業改善に取り組み、研修を重ねています。

全学年で実施する「数研式CRT学力検査」や「チャレンジテスト」及び「全国学力・学習状況調査」の分析結果や児童アンケートなど児童の実態をもとに、低・中・高学年ごとの『重点』を定め、授業改善に取り組んでいます。

3年目のまとめの年となる今年度は日々の授業実践に加え、高学年におけるデジタル教科書の活用などICTを効果的に活用しながら課題を追究し、目指す子ども像の実現を目指します。

### 生き生きと学ぶ子を育成する学習指導の工夫

～算数科の授業改善を通して～



#### 4年算数科

「垂直・平行と四角形」児童が、実物投影機を使ってテレビに写し説明しているところ



#### 5年算数科

「平均とその利用」クロームブックを利用し、デジタル教科書を使って授業を受けているところ

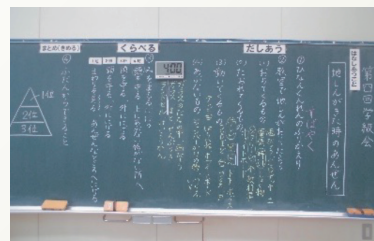
## 厚真町立上厚真小学校

### 今年度の公開研究会は終了

本校では、7月2日(金)に公開研究会を行い、多くのご助言をいただきました。現在は各グループからの提案を共有し、全体のものとして授業改善を進めています。①課題を分析する際に必要な思考力を鍛えられるように、各教科において思考させる場面を設けるよう授業改善を進めています。②道徳ノートの活用に入力を入れ、ノートを見開き1ページで使い、内容項目ごとにノートを整理して使っています。③個別の指導計画を活用して授業設計や授業評価を行えるよう研究を進めています。

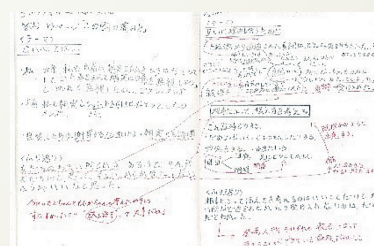
### 自分の考えをもち、主体的・協働的に学ぶ子どもの育成

～道徳科と教科等のつながりを意識した授業づくり～



#### 3年学活

思考させる場面を重視した学活



#### 6年道徳

内容項目ごとに見開きで使う道徳ノート





## 伊達市立有珠小学校

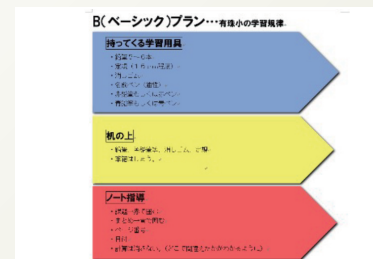
### 公開研究会11月19日(金)

本校は、算数科を研究領域とし、4年計画で研究を進めています。これまでに、算数科において「確かな学力」を身に付けさせる授業づくりを目指してきました。今年度は、それに加えて「うす小算数A(アクション)プラン(年間)」の作成と「B(ベーシック)プラン」の確立に取り組んでいます。年度当初に作成した算数のアクションプランを活用することで、基礎的・基本的な学習内容の定着・習熟を目指すとともに、ベーシックプラン(学習規律)を整え、学校全体で算数科に取り組んでいくことで学習の効率性を高めていこうとしています。

### 「確かな学力」を身に付ける子の育成

～基礎的・基本的内容の定着を目指した算数科の授業づくりを通して～

うす小算数A(アクション)プラン  
3カ月ごとに成果と課題を振り返り、次につなげている。



B(ベーシック)プラン  
学習規律を整え、学校全体で指導に当たろうとしています。

### 10分間ミニ研修

## 体育科におけるICTの効果的な活用

第2回の10分間ミニ研修では、国語科におけるICTの効果的な活用について文部科学省の資料からお伝えしました。ICTの活用というと、座学中心と捉えるかもしれませんが、美術や体育などの教科でも1人1台端末の効果的な活用が求められています。そこで今回は、同じく文部科学省の資料から、体育科におけるICTの効果的な活用方法についてお伝えしていきたいと思います。

([https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt\\_jogai01-000009772\\_10.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt_jogai01-000009772_10.pdf))

学習指導要領ではICTの活用について以下のように記述されています。

- (3) 第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用して、各分野の特質に応じた学習活動を行うように工夫すること。 中学校学習指導要領(平成29年告示) 保健体育

- 例えば、体育分野においては、学習に必要な情報の収集や、データの管理・分析、課題の発見や解決方法の選択などにおけるICTの活用が考えられる。また、保健分野においては、健康情報の収集、健康課題の発見や解決方法の選択における情報通信ネットワーク等の活用などが考えられる。

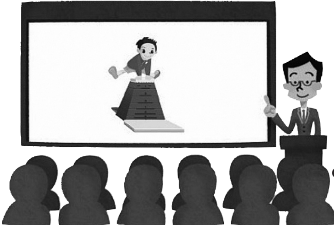
- なお、運動の実践では、補助的手段として活用するとともに、効果的なソフトやプログラムの活用を図るなど、**活動そのものの低下を招かないよう留意することが大切**である。

- また、情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことにも配慮することが大切である。 中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 保健体育編

ICTを使うことで児童の活動時間を少なくしてしまうのではなく、ICTを効果的に活用することで今までよりも効果的な学習にしていこうということです。



そのための方法として、以下のようなものが例示されています。



あのスライド、もう少しじっくり見たいなあ…


これまで児童生徒は技の行い方について、その時間内に理解することが求められた。

### 知識の習得

1人1台になると…



技ごとの動画を視聴



開脚跳び



かかえ込み跳び

技の行い方について、見たい動きを必要に応じて繰り返し視聴

**個に応じた学びが可能に**



自分の動きを確認したいなあ…

これまででは自分の動きをじっくりと見ることが難しかった。

### 技能の習得①


1人1台になると…

自分が確認したい場面を繰り返し確認



授業で学習した動きのポイントと自分の動きを比較し、できている点や修正点を確認

**自分の動きを即座に確認することができるように**



前の動きを確認したいなあ…

これまででは前時の自分の動きを確認することが少なかった。

### 技能の習得②

1人1台になると…

毎時間の動きを撮影



動きの変容を確認

前々時      前時      本時

**動きを比較することにより、自己変容を確認することができる。**



あっ！そこ、スローで観たいんだけど…

これまでは限られた時間内に、チーム全員で同一画面の動きを確認していた。

## 思考力、判断力、表現力等の育成

### 1人1台になると…

各自の視点で、ゲームの撮影動画を見返す。

各自が次のゲームに向けての作戦を考える。

各自が考えた作戦をもちよって、チームで交流する。

次のゲームに向けて作戦を考え、交流



**自分の考えを深めて対話することができる。**

新記録を出したいな。ところで、去年の記録は何cmだったかな…



これまでは、過去の50m走のタイムや走り高跳びの記録をその場で調べることは難しかった。

## 学びに向かう力、人間性等の涵養

### 1人1台になると…

過去の自分の記録や全国の平均値を検索

記録の伸びの実感



**その場で、過去の自分の記録や全国の平均値等との比較ができる。**

繰り返し技を視聴することで個に応じた学びを促したり、即座の確認や自己の変容の気付きを促すことで児童生徒の意欲の向上を図ったり、学習内容とその効果の積み重ねの確認ができることで意欲的・積極的な態度の涵養を培ったり、授業以外の場での活用を行うことで学びの広がりやねらったりすることができます。このように、体育科においても1人1台端末を有効に活用することで、個別最適な学びと協働的な学びをねらった学習をすることが求められています。

北海道の子どもたちの課題として、「運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向」「運動時間の減少に伴う体力の低下」などがあげられます。ICTを活用する等日常の授業改善を図ることで、少しでも児童の現状の改善につながります。ぜひ、日常の授業の中にも1人1台端末を有効的に取り入れてみてください。



# 令和3年度 胆振教育研究所 今年度の研究について

所報「いぶり」第2号で、「理論研究」の内容についてお伝えしましたが、今回は「調査課題研究」の今年度の内容について紹介します。

## 調査課題研究 <今年度の調査> ICT(1人1台端末)を効果的に活用している事例の調査

胆振管内の小中学校を対象に、各校における「ICT(1人1台端末)を効果的に活用している事例の調査」に関するアンケート調査を実施(7月)

アンケート調査2回目(10月)を行い、アンケートの集計・比較結果から、管内の学校におけるICTの活用状況や効果的な指導の実践例を紹介する

考察を加え、調査課題研究紀要として発行  
(2月末予定)

調査課題研究では、胆振の教育の現状を知ることができます。紀要が発行された際には、ぜひ読んでください。

7月に実施したアンケート調査から、いくつかICTを活用した授業の実践事例を紹介します。

以下のURLに詳しい情報を掲載しているので、ぜひご確認ください。 URL:<http://www.iburi-education.jp/info/kenkyu20211013>

## 令和3年度 胆振教育研究所

## 「冬季研修講座」のご案内

講座のテーマ 「通常学級に在籍している特別支援的配慮が必要な児童の支援について」

日時 令和3年12月15日(水)～令和4年1月26日(水)

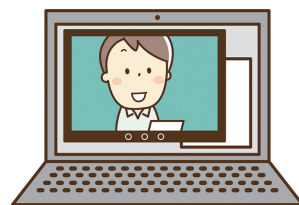
形式 動画配信 対象 小・中学校の教員

内容 特別支援的な配慮が必要な児童の支援について  
通常学級内における指導・支援について

講師 高杉 祐之 氏 (江別市立大麻小学校教諭)

※詳細につきましては、各校に送付する要項をご覧ください。

【研修講座 問い合わせ先】 胆振教育研究所 所員(登別市立幌別小学校 教諭 若林梨恵) TEL0143-85-2521



## 令和3年度 第76回 北海道教育研究所連盟研究発表大会(後志大会) 兼 第63回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会

令和3年8月27日(金)に北海道教育研究所連盟研究発表大会が開催されました。

- 開会式
- 全体会 ——— ◆ 第17次共同研究の経過報告  
◆ 加盟機関による研究発表
- 分科会 ——— ◆ 所員・研究員等による学習評価及びICTを活用した授業改善に関わる協議  
◆ 所員による令和時代の教育研究所・センター運営にかかわる協議
- 記念講演 ——— 演題:「教育研究所・センター所員の資質能力の向上に向けて  
～小中学校におけるICTを活用した授業改善と評価の実際～」  
講師: 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 副部長/総括研究官 白水 始 氏
- 閉会式

※研究発表大会の詳細につきましては、北海道教育研究所連盟のホームページをご覧ください。随時更新される予定です。

■発行所 胆振教育研究所 TEL・FAX 0143-80-3100 ホームページ <http://www.iburi-education.jp>  
〒059-0551 登別市登別温泉町123-1 のぼりべつ文化交流館 カント・レラ2階

■発行者 立花 和 実

■印刷所 (有)デザインワーク・エーチ 登別市幌別町6-20-34 TEL 0143-88-1890・FAX 0143-85-1890  
E-mail [work.d@bridge.ocn.ne.jp](mailto:work.d@bridge.ocn.ne.jp)

所報

いぶり